

会 議 録

会 議 名	第2回 三芳町学校再編等審議会			
開 催 日 時	令和5年8月29日(火) 午後5時30分開会 午後7時35分閉会			
開 催 場 所	三芳町役場3階 会議室			
出席者氏名	会長	佐藤 和秀	委員	高橋 敦士
	副会長	宇佐見 宏一	委員	明石 沙絵子
	委員	岡野 雅一	委員	南雲 友香
	委員	細谷 拓郎	委員	曾我 幸也
	委員	大澤 純之	委員	武田 和広
	委員	田畑 裕孝	委員	渋谷 勝
	委員	松元 優子	委員	吉村 豪
欠席者氏名	委員	松村 明子	委員	清水 恵美
	委員	西内 一夫		
事 務 局	学校教育課			
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事(説明・協議事項)</p> <p>(1) 前回会議録について</p> <p>(2) 会議での調査事項等について</p> <p>(3) 協議の進め方と協議</p> <p>4 諸連絡</p> <p>5 閉会</p>			
会議経過	別添のとおり			
会議資料	<p>・第1回会議での調査事項等について ・三芳町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(抜粋版) ・三芳町第5次総合計画(抜粋版) ・学校魅力化フォーラム事例</p> <p>・小川町立小中学校再編計画(長期計画)</p>			
会議録の確定	令和5年11月7日			

発 言 者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果
会長	<p>1 開会 2 会長あいさつ 3 議事（説明・協議事項） （1）前回会議録について</p> <p>事前に資料と会議録について送ってもらったが、ご意見等はあるか。</p> <p>（発言者なし）</p>
会長	<p>では、この場で議事録を承認していただいたということで、事務局の方で公開をしよう。</p>
会長	<p>（2）会議での調査事項等について 前回会議からの調査事項について、事務局より説明いただきたい。</p> <p>事務局説明</p>
会長	<p>【人口に関する事項について】 大規模マンションを3つ示していただいているが、最初のは唐沢小学校区、2つ目は藤久保小学校区、今後建設予定のものは竹間沢小学校区なのでご承知おきください。</p>
委員	<p>資料について、いくつかパターンを出して頂いたので、ある程度の動きが見えてきた。この場でどの統計に近いなどの結論を出せるものではないということはあるが、提示された資料からは、2060年頃には最大でも15歳以下の人口はおそらく4000人程度、悲観的な場合には2000人程度というようなシナリオで考えて検討していくということで個人的にはいいのではないかと感じた。大規模なマンション等が開発されても、もしかしたら学校等の規模が変わるような劇的な変化を生まないということも個人的には感じた。</p>
委員	<p>【校舎等の耐用年数について】 三芳町としては校舎の耐用年数の目安を60年間という形で設定しているということだが、例えばどこかの学校が校舎としての役割を終えた後で民間に払い下げたりして、民間として使う分には問題ないだろうという見通しか。それとも、民間として使うのも限界という状態か。公共に使う建物と民間が使う建物だと耐用年数と安全基準が若干違うかと思う。法律で定められているところはクリアしなくてはいけないと思うが、認識として、学校として使うから60年ということにしたのか。</p>
事務局	<p>公共施設マネジメント基本計画の適正化方策では、跡地利用、いわゆる統廃合後の民間利用については、特段明記されていない。今お話しにあったような民間利用についても触れていない。60年を超えてすぐに使えないというわけではないが、全国的な建築物の考え方として60年というところが三芳町では設定されている。ただちに使えなくなるわけではないという</p>

	<p>ことをご理解いただければ。</p>
委員	<p>長期継続計画で80年に品質を保ちたいという場合に改修を行う場合、統廃合のときの縮減効果のシミュレーションがあったと思うが、改修費用が入った上でのシミュレーションだったのか。</p>
事務局	<p>以前示させていただいた41億という縮減効果というのは、長寿命化改良を行うということではなく、適正化方策に則り統廃合した場合、廃校する校舎については今後建築費と維持管理費がかからなくなってくると想定した場合の縮減効果。</p>
委員	<p>仮に統廃合をした場合の縮減効果等、例えばその各校舎を長寿命化改良した場合の試算というのは可能か。</p>
事務局	<p>長寿命化改良をした場合の試算というのは出していない。可能かどうかというところは、当課だけでは判断できかねる部分があり、施設全体を管理している施設マネジメント課との検討も必要かと思う。できるかどうかについては、次回の会議にご回答する。</p>
委員	<p>【他市町村事例に関する事項について】 会長の許可が得られれば、今回の事務局が用意した資料の2件について独自で調べたことがあり、そちらを紹介させていただきたい。</p>
会長	<p>どうぞ、お願いします。</p>
委員	<p>山県市のケースと小川町のケースで調べたことを順番に紹介させていただく。 まず、山県市のケース。山県市の学校教育課長に非公式で、個人的に電話で問い合わせをさせていただき、少しお話を聞かせていただいた。そもそもの統廃合が進んだ中で、今のような形に収まったのかというところをお聞きしたかったのだが、実際、あまりにも生徒数が減少しすぎて、仮に市の中で中学校1校、小学校1校などにしても、結局適正数に満たない、結果的に現状とほぼ変わらない、そういう現状もあり、別の道を模索しようというようなことがあったのが大きいというお話をされていた。スクールバスでの移動の話もあったが、山間部ということもあってこの統廃合の話以前にスクールバスの導入も進んでおり、比較的そういった話もしやすかったり、小学校の合同事業の文化も実際にあったので導入しやすかったようだ。このままずっと行かれるのかというお話をしたときに、建物自体が使いえなくなると言った場合には当然このままでいけるはずはないという認識は皆様お持ちのようで、現状としてはこういうふうやっていくけれども、現実的に建物を使いえなくなってきた段階で、おそらく地域住民から自然と統合しようしようというのは、動き、気運があるであろうから、そうなった際には統廃合に向けてもう一度動いていくというようなお話をされていた。それが5年なのか10年後なのかはわからないけれども、教育委員会としては何年後にやりますという話はしておらず、おそらく住民の方から、そろそろもうどうしようもないというような話があれば、当然</p>

	<p>動いていかざるを得ないというふうにおっしゃっていた。校舎も耐用年数を過ぎたものもあり、当然補修も改修もするのだが、やはりそこは正直厳しい状態であると。絆創膏を貼るようなかなり厳しい状態でやっているので、この状態が5年10年にどれぐらい続くかという難しい部分は現実的にあるかもしれないとおっしゃっていた。当初は統廃合に関しての反対意見というのも地域で多かったのでこういった動きもあったという話だが、徐々に変わってきつつあり、特に高齢者の方ができれば学校を残してほしいという意見が多い一方で、若い世代の方、お子さんがいらっしゃる世帯の方は、古い現存の校舎にはこだわっておらず、統廃合別に構わないんじゃないかという意見が増えてきているというところではあるが、教育委員会としてはあまりその住民の対立がないような方法で進めていくということだった。</p> <p>もう一つは小川町の事例。これはかなり個人的な事例。友人に小川町で、竹沢小学校の4年生、1年生の子どもを持つ方がいらしたので、保護者として、現在の統廃合をどのように感じるかについて聞かせていただいた。先ほどの話にもあったが、既に小川東小学校では統廃合があったのでその話も聞いたが、皆さんの認識としては、確かに統廃合は仕方ないんだろうという話はあるつつも、あまり住民からの意見を吸い上げるという機運がなかったようで、パブリックコメント等の意見がある方はどうぞというような形が主体となっており、説明会でも一方的に説明されてしまい、そんなものだというような形で進んだのには若干の不満を持っている方がそれなりにいらっしゃるというような状態であるというふう聞いた。竹沢小学校については、1学級10人、20人、30人という世界で、現状としては非常にアットホームでいい。学校としては非常に良い対応をしていただき、もしその選択肢の中に何も制約がなければ、個人的には現状のまま子どもたちを学ばせてあげたいとおっしゃっていた。一方で、学級の生徒の数が少ないと、親の負担、PTAの役員や地域の委員もほぼ兼任で6年間ずっとやるというような状況が続いているので、統廃合によって適正化されると少し楽になるのではないかと話もあった。特に印象的だったのは、先ほどの山県市でもスクールバスがあるないでいろいろ変わってくるのかと思うが、当初小川東小学校の廃止があったとき、4km圏内の通学で何とかなので通学スクールバスは導入しない形でやろうという動きがあったそうで、それが非常に保護者住民の方の反感を生んだそう。ここは非常に紛糾し、様々な議論の後、やっぱりスクールバスは導入しようという形で導入され、今後の再編でもスクールバスは導入することになっているようだ。やはり4kmを超えるような、小学生、特に1年生2年生の通学に関しては、非常に厳しいというふう感じているというのが小川町の実例で言えるのではないかと個人的には思った。</p>
会長	<p>貴重な情報の提供、ありがとうございます。</p>
	<p>(3) 協議の進め方と協議</p>
	<p>事務局案説明</p>
会長	<p>統廃合というものを大きく捉えていただき、それに対してそれぞれのお</p>

	<p>考えがあると思う。資料の方にあった市や町での取り組み、あるいはそうじゃなくてという方法もあればいい。それを全部三芳町に当てはめたときにどうなるか。具体的にどこの学校がというわけではないが、お話しできればいいかと。そこで出して頂いた意見をもとに、第3回以降の進め方等も検討できれば。具体的にどこをどうするというのではなく、広い意味での再編についてご意見いただければと思う。</p>
委員	<p>最終的には統廃合する場合のメリットとデメリットみたいな議論に収斂されていくのかと思いつつ、この段階でいきなりここに行くのは早いのかと。現時点での学校再編に関する問題点を資料等で説明していただいたと思うが、共通事項として、今の実際の生徒数とか見させてもらったので、もう一段階統廃合の議論をする必要があるというところの議論が必要な気がする。皆さんが統廃合のメリットデメリットを具体的に検討していった方がいいというような声があればそれでいい。ちょっと唐突感があったもので。</p>
会長	<p>参加していただいている皆さん同じ認識を持っていただき、今後の話し合いに参加していただきたいと思っている。学校再編というところの最後のところではなく、広くご意見をいただければと思う。ただ現状としては資料で示した児童生徒数も減っていくという現実としてある中で、この議論を進めていければと思うが。</p>
委員	<p>もう少し広く議論しても構わないということでもいいか。</p>
会長	<p>もちろん構わない。 (3グループに分かれ、協議。)</p> <p>【協議内容の発表】 別紙のとおり</p>
事務局	<p>7 諸連絡 ・11月開催の校内音楽祭の見学について確認。具体的な集合等については、追ってお知らせすることとした。 ・第3回の審議会日程を【11月7日(火)17時30分～】とすることについて確認。場所は追ってお知らせすることとした。</p> <p>8 閉会</p>

3 議事

(3)協議の進め方と協議 発表内容

『統廃合のメリット・デメリットとその解決方法』

メリット	デメリット	解決方法やその他意見
■Aグループ ・予算・財政面 ・人間関係と学校行事 ・コミュニケーション能力育成 ・PTAと教員の負担軽減	・通学(体力・安全・熱中症等)	スクールバスの案もあるが、運転手不足などの課題も
■Bグループ ・財政面 ・活気 ・クラス替えが可能／多様性 ・部活動数の確保ができる ・教員数の確保 (専門性を持つ先生の共有)	・通学距離と時間 ⇒少人数のきめ細やかな教育機会の喪失	公共交通機関との連携 福祉タクシーの朝夕利用 ICT化、荷物の減量 スクールバスについては、場合によっては防犯に寄与
■Cグループ ・校舎耐用年数へ対応できる ・財政面 ・学年に人数がいること ・校舎新設による快適な環境下での学習が可能となる	・通学 ・地域の繋がり・文化が失われる可能性	道路整備の必要性 スクールバスにもメリットデメリットがある ⇒メリット/防犯・距離の制約がなくなる 課題/財政・運用・持続性・通学時間 現計画だけではなく、さらに先を見据えた新たな新時代の計画を考え、今できることを検討していくこともいいかもしれない。